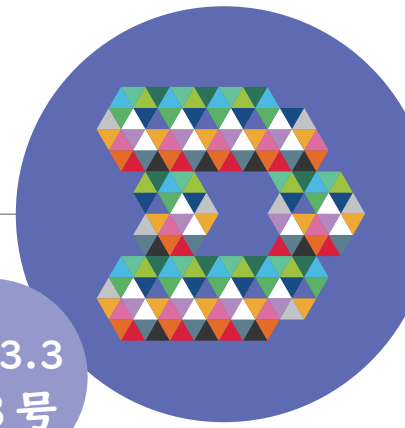




富山大学ダイバーシティ推進センター

News Letter

Center for Diversity and Inclusion, University of Toyama



2023.3
第3号

TOPICS

- 令和4年度ダイバーシティ・シンポジウム
- 学長賞「未知に挑む女性研究者賞」表彰式
- 女性活躍推進法に基づく行動計画の策定
- 特集** ◆ 理工系女子学生増加に向けた取組
- ◆ 育児・介護休業法に伴う育児休業等関係規則の改正について
- ◆ 男性の育児休業取得者インタビュー
- ダイバーシティ推進センター担当理事・副学長ご挨拶

R4年
12月5日

令和4年度 ダイバーシティ・シンポジウム

日時 令和4年12月5日(月) 13:30 ~ 15:50
形式 黒田講堂ホール・ハイブリッド・オンデマンド
参加者 80名

本シンポジウムは2部構成で実施し、第1部の基調講演では、SDGパートナーズ有限会社代表取締役CEO 田瀬 和夫 氏を講師に迎え、Well-being（ウェルビーイング=よく生きる）の実現や学問領域での可能性を広げるためのDE&I（Diversity, Equity & Inclusion=多様性、公平性、包括性）推進のあり方などについてご講演いただきました。

性別や世代を問わず、社会における多様性、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）、心理的安全性などの関する理解を深める機会となりました。

第2部は、富山大学学長賞第6回「未知に挑む女性研究者賞」の表彰式を行いました。詳細は次のページをご覧ください。



参加者の声

- ◇ Well-beingの言葉の概念や実現のためのステップについてよくわかった。
- ◇ Well-beingの考えがもっと広まればよいと思った。
- ◇ 第一線で活躍されている田瀬さんから、ご自身の考えや仮説を含めたお話を伺えたことが非常に貴重だと感じた。

～ 富山大学学長賞 ～

第6回「未知に挑む女性研究者賞」表彰式

富山大学における女性研究者の優れた研究と高い将来性を称えるため、「未知に挑む女性研究者賞」の表彰式が黒田講堂ホールにて執り行われました。本賞は、人文・社会科学、芸術並びに自然科学の各分野において優れた研究成果を挙げ、将来的に国内外で当該研究分野をけん引していく高いリーダーシップが期待される女性研究者を顕彰することにより、女性研究者の研究意欲の向上、学術研究の将来に資する人材育成等を目指すものです。

本年度は女性研究者部門1名、女子学生部門2名、奨励賞3名が選ばれ、齋藤滋学長から表彰状と副賞が贈られました。

女性研究者部門

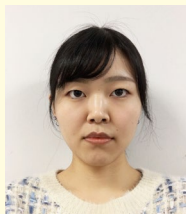


森岡 絵里
学術研究部理学系 助教

研究テーマ ショウジョウバエ概日振動体のバイオイメーキング解析

この度は「未知に挑む女性研究者賞」を頂戴し、誠に光栄に存じます。私はショウジョウバエを主な実験材料としたバイオイメーキング解析を用いて、概日時計の振動メカニズムについて研究を行っています。2022年5月には、ミトコンドリアのイオン交換輸送体 LETM1 が時計遺伝子振動や細胞内イオン濃度リズムの形成に不可欠であることを原著論文として報告致しました。研究の遂行にあたり、ご指導・ご協力頂きました学内外の多くの先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。この賞を励みとし、今後も研究に精進して参ります。

女子学生部門



楠井 優香
医学薬学教育部
薬科学専攻
博士後期課程 3年

研究テーマ 覚せい剤メタンフェタミンの行動学的変化に対する側坐核 Piccolo の作用

この度、富山大学学長賞「未知に挑む女性研究者賞」を賜り大変光栄に思っております。齋藤滋学長並びに関係者の皆様、そしてこれまでご指導いただきました新田淳美教授に御礼申し上げます。また、支援いただきました SPRING 事業の皆様にも御礼申し上げます。私は、これまで世界的に社会問題となっている覚醒剤依存に着目し、その治療ターゲットとなりうる分子の機能を検討しました。覚醒剤乱用は依存のみならず、様々な症状を引き起こすことから、今後も研究を行っていきたいと考えております。今回の受賞を励みに、より一層研究活動に精進していきたいと思います。



鄧 文傑
理工学教育部
地球生命環境科学専攻
博士課程 2年

研究テーマ Hypoxia research in the East China Sea using multiple chemical tracers

I am honored to receive the award for the Female Researchers of the University of Toyama for 2022. I really thank President Prof. Shigeru Saito, all people concerned and my supervisor Prof. Jing Zhang. East China Sea (ECS) is one of the richest fishing grounds in the world, but hypoxia is seriously affecting the survival of marine life.

At present, the study of hypoxia in the ECS mainly focuses on limited observation and investigation, and studies on water quantification and nutrient transport are rare though both are crucial. My research uses multiple chemical tracers to identify and quantify low-oxygen water in the ECS. I hope my research could provide academic and practical help for understanding the hypoxia phenomena and protecting the marine ecological environment.

奨励賞（女子学生部門）



山田 果琳
医学薬学教育部
薬科学専攻
博士前期課程 2年

研究テーマ 抗がん薬パクリタキセル誘発末梢性神経障害性疼痛の発症メカニズムの解析及び新規治療薬ミロガバリンの作用の検討

この度は「未知に挑む女性研究者賞」奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。これまでご指導いただいた先生方や、ともに研究に励んできた応用薬理学の研究室生の皆様へ心から感謝申し上げます。痛みは身近でありながら理解が進んでいない感覚です。患者様の生活の質向上に貢献できるよう、今後も研究に励みたいと思います。



井上 真理子
医学薬学教育部
生命・臨床医学専攻
博士課程 3年

研究テーマ ・母親の妊娠中における発酵食品の摂取と子どもの睡眠時間
・子どもの発酵食品の摂取と子どもの睡眠時間

この度は、「未知に挑む女性研究者賞」奨励賞を賜り大変光栄に存じます。これまでご指導いただいた稲寺秀邦教授をはじめとする公衆衛生学講座の皆様、エコチル調査にご協力いただいている皆様にお礼申し上げます。この受賞を励みに、公衆衛生学研究の更なる発展、子ども達のより良い未来作りに貢献して参りたいと思います。



楊 笑
理工学教育部
数理・ヒューマンシステム科学専攻
博士課程 3年

研究テーマ 最大多様性のグループ化問題

この度は「未知に挑む女性研究者賞」奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。齋藤滋学長、ならびに関係者の皆さま、これまでご指導いただいた先生方に心から御礼申し上げます。また、支援して頂きました JST 次世代研究者挑戦的研究プログラムにも御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、より効率的なアルゴリズムを得るために、いくつかの困難を克服して、さらに努力します、今後も精進して参ります。さらに、留学の経験を生かし、日中友好のため貢献したいです。



受賞者6名の皆様（中央は齋藤学長）



表彰式の様子

国立大学法人富山大学 行動計画を策定しました

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく富山大学の「行動計画」を新たに策定しました。
令和4年4月1日から令和10年3月31日の6年間を計画期間とし、女性が活躍できる職場環境の整備を行い、推進活動を進めて参ります。

目標

- 1: 女性教員比率を毎年度1%ずつ向上することを目指す。
- 2: 大学の意思決定機関等における女性数を1名以上増加させる。
- 3: 男性の育児休業取得率を20%以上とすることを目指す。

行動計画の詳細は本学 HP に掲載しています。

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/information/public/action-plan/>

富山県「男女共同参画推進事業所」に認定されました

富山県は、平成15年度から男女共同参画チーフ・オフィサーを核とした取組みを行っている事業所を「男女共同参画推進事業所」として認証し、男女共同参画を積極的に推進しています。

本学は、平成25年度に女性管理職登用など本学のこれまでの取組みが評価され、標記事業所の認証を受けました。以降も女性の活躍推進や仕事と家庭の両立支援などの取組みを継続し、令和4年6月25日付けで4度目の認証を受けました。(令和7年7月31日までの3年間)

今後も、多様な人材が活躍できるよう、教育・研究活動と生活の両立支援、男女共同参画の推進に積極的に取り組んでまいります。



令和4年度ダイバーシティ・セミナー

日時: 令和5年2月21日(火) 13:30~14:45

形式: オンライン・オンデマンド

参加者: 88名

講師: 永合 由美子氏 (東京大学国際オープンイノベーション機構プロジェクトマネージャー)

本セミナーは、「男性は仕事をして家庭を支えるべきだ」「女性は理系に向いていない」などのアンコンシャスバイアスに対し、ジェンダー意識のアップデートを目指して開催しました。

永合 由美子氏 (東京大学国際オープンイノベーション機構プロジェクトマネージャー) を講師に迎え、「アンコンシャスバイアスを超えて~次世代の可能性は∞(無限大)~」と題し、ジェンダーに関する様々な事例をもとに、理工系女子学生が少ない原因や進路選択に与える影響、男女格差の現状、アンコンシャスバイアスとの向き合い方についてご講演いただきました。参加者にとって学びが多く、自身の今後のジェンダー意識や行動を見つめ直す貴重な機会となりました。

アンコンシャスバイアスに対して私たちに何かできる？

1. 一人一人の中の“無意識の思い込み気づく”
 - ・自分のなかの思い込みに気づき
 - ①直感行動を抑えて ②システム2が働くように
2. アンコンシャスバイアスの再生産を止める
 - ・次世代への教育
 - ・ロールモデル(サンプル)の存在
3. Diversity/Minority を尊重する、活かす(数の確保)



~受講者の感想~

- ◇ 直感行動を抑えて、ゆっくり立ち止まって考えたり、自分の自己肯定感を高めるなど、小さいことを重ねながら、環境を変えていきたい。
- ◇ アンコンシャスバイアスを強制・排除するのではなく、受け入れて付き合っていくという考え方が印象に残った。
- ◇ 複数の場所をもつことでリスク回避ができる『変身資産』のお話は、生きづらさを感じているかもしれない若い世代に伝えてみたい。

令和4年度ダイバーシティ・管理職研修

日時: 令和5年3月2日(木) 14:00~14:50

形式: 五福キャンパス事務局 大会議室・ハイブリッド

参加者: 60名

講師: 永合 由美子氏 (東京大学国際オープンイノベーション機構プロジェクトマネージャー)

本研修は、全学的なダイバーシティ推進を図るうえで、大学の組織運営における女性活躍推進の重要性を理解することを目的に開催しました。

上記のセミナーに引き続き、永合 由美子氏から、「大学におけるダイバーシティ推進~アンコンシャスバイアスを超えて」と題し、エクイティの基本的概念のほか、男性の育児休業取得促進、女性を積極的に登用することによるパフォーマンス・成果の事例紹介や日常に潜むアンコンシャスバイアス等に関する講演が行われました。

受講者は、多様な人材の組織運営への参画や活躍の実現に向けて、管理職者に求められることなどについて認識を共有しました。ダイバーシティ推進センターでは、今後も引き続き、全学的なダイバーシティ推進に取り組んでいきます。



~受講者の感想~

- ◇ 差別や障壁の解消のため、平等性だけでなく公平性にも目配りが必要だという点について、認識を新たにした。
- ◇ ダイバーシティ&インクルージョンは(義務ではなく)成長戦略という言葉が印象的でした。
- ◇ アファーマティブアクション(社会的な要因による差別で不利益を被っている者に対して講じる暫定的な措置)の重要性について考えさせられました。

令和4年度研究者キャリアアップ研修

日時：令和4年9月12日(月) 13:30～15:00
形式：オンライン
参加者：19名
講師：庭野 和子氏 (株式会社インソース)

本学は、第4期中期目標・中期計画において、大学運営における意思決定機関等への女性の参画を拡大することを掲げています。本研修は、その一環として、研究者が大学の教育・研究、組織運営に主体的に関わって行くために必要なコミュニケーション能力、マネジメント能力等の向上を図ることを目指しています。

株式会社インソース 庭野 和子氏を講師に迎え、効率的な働き方、仕事の時間管理の基本的な手法を学ぶ内容を講義いただきました。グループワークでは参加者から活発に意見が挙がり、参加者にとって今後の仕事への取り組み方や意識の向上に繋げる機会となりました。

研究者キャリアアップ研修
～タイムマネジメント～

こんなお悩みありませんか？

- 業務が多すぎて、どれが優先すべきかわからない
- 予定していた業務と、急に入ってきた業務とどちらを優先すればいいの？
- 期限を定めても計画どおりに進まず、気づけば締切直前
- 業務に追われては、業務が終わらない状態が続いていませんか？

講師：庭野 和子氏 (株式会社インソース)

(プログラム内容)

- 時間管理について考える
- タイムマネジメントの原則
- 仕事を行う際のポイントを意識
- 仕事に優先順位をつけるコツ

令和4年
9/12(月)
13:30～15:00
Zoomによるオンライン受講

【対象】 富山大学に所属する研究者(30名) ※申込先着順 (性別・学域別配分、学域別、学域別、委員を含み、学生は除く)

【申込】 8月31日(水)までに
下記URLまたは右のQRコードから
申込フォームへアクセスの上、
お申し込みください。
ご登録いただいたメールアドレスに、
参加用URLをお送りします。
※申込フォーム
<https://forms.gle/4Vw3qgthTtH414u45>

富山大学ダイバーシティ推進センター (令和4年4月13日(金)より名称変更) 〒930-8555 富山県富山市富山町1-1 富山大学学生生活 中央棟3階303号室
TEL: 076-442-6287 Fax: 076-445-9028 E-mail: univ@diversity.furukawa-u.ac.jp

～受講者の感想～

- ◇ 自身の状況を振り返り、今後のことを考える機会が持てて、大変有効な時間でした。
- ◇ 他の先生方の意見もお聞きすることができ、明日から活用できるという点でも参加の意義を感じました。
- ◇ ワークライフバランスはバランスをとるものではなく、折り合いをつけるものだというのが印象的でした。

英語論文セミナー

日時：令和4年10月13日(木) 16:30～18:00
形式：オンライン
参加者：80名
講師：前田 広正氏 (エルゼビア・ジャパン)

エルゼビア・ジャパン 前田 広正氏を講師に迎え、「アクセプトされやすい英語論文とは？～出版社の立場から～」と題し、論文投稿のプロセス・科学英語論文に求められること、論文の構造などをご指導いただきました。今後の論文作成に、大いに役立てられる内容でした。

英語論文セミナー

アクセプトされやすい英語論文とは？
～出版社の立場から～

日時 令和4年10月13日(木) 16:30～18:00

場所 オンライン開催 [ZOOM] 参加費無料 (Zoom ID: 782000724)

対象者 教員・研究員・大学院生

講師 エルゼビア・ジャパン株式会社 前田 広正 氏

内容

- なぜ論文を書くのか？論文投稿のプロセス
- 科学英語論文に求められること
- 執筆段階
- 論文の構造
- 先行研究の調査 (Scopusを例に)
- 適切なジャーナルの選択 (Scopusを例に)
- 出版段階

最新参加用QRコード

主催：研究推進機構・附属図書館
富山大学ダイバーシティ推進センター
共催：ダイバーシティ推進センター

<https://diversity.furukawa-u.ac.jp/register/1911F444221199-28262050-16>

事務業務改革・改善セミナー

日時：令和4年11月7日(月) 第1部 9:30～12:00 第2部 14:00～16:30
会場：五福キャンパス事務局 大会議室
参加者：事務系職員 (課長補佐級以上)
第1部 34名、第2部 33名 計67名
講師：鈴木 悟史氏 (株式会社ビーコンラーニングサービス コンサルタント)



富山県ウェルビーイング創出事業(働き方改革や女性活躍の取組みを促進)を活用し、事務業務改革・改善、DX(デジタル・トランスフォーメーション)化による働き方の改善を推進していくことを目的として開催しました。

株式会社ビーコンラーニングサービス コンサルタント 鈴木 悟史氏を講師に迎え、「効率化・DX化を進めるためのステップ」、「ムダの定義」、「自組織での事例研究」等について、講義、個人演習、グループワークを行いました。

～受講者の感想～

- ◇ 効率化・DX化が進まない理由や問題意識について考えさせられた。
- ◇ 業務改善の必要性を改めて実感した。
- ◇ 漠然と業務の改善方法を考えるのではなく、ムダを定義づけて考えるのが大切だと感じた。
- ◇ 付加価値を生まないことが分かっているのに丁寧な仕事(たくさんの資料を添付する等)をしていることを見直すきっかけとなった。

Smart Café

ロールモデルによる
部局ミーティング(学生対象)

Smart Caféでは、第一線で活躍する富山大学の各部局の研究者から、研究者を志すきっかけや仕事と家庭の両立、海外留学、キャリアパスなどのお話を伺っています。

Smart Café in 理学部

日時：令和4年6月15日(水) 13:00～14:00
会場：五福キャンパス 理学部C105
参加者：16名

富山大学学長賞第5回「未知に挑む女性研究者賞」奨励賞(女子学生部門)を受賞され、令和4年4月に理学部特命助教に着任された片境紗希先生から、「ごく普通の大学生だった私が研究に夢中になるまで」と題してご講演をいただきました。

講演では、小さな成功体験を積み重ねることでプロ意識が育まれていくこと、学生時代に富山大学基金事業学生海外留学支援プログラムを利用した留学経験、研究活動を通じて「社会人としての基礎力」が身につくということ、また、国際学会などの経験から人との繋がりの大切さを知ったといったお話に、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

講演の様子は理学部 YouTube チャンネルにて一般公開されていますので、是非ご覧ください。

(<https://youtu.be/jezRvNfXYZsl>)



Smart Café in 薬学部・和漢研

日時：令和4年7月15日(金) 16:30～17:30
形式：オンライン・オンデマンド
参加者：42名

大学院生2名を講師として招き、医学薬学教育部薬科学専攻博士前期課程2年 小林弥由さんから「大学院での生活ってどんな感じ?～私のラボ・ライフ・バランス～」、医学薬学教育部薬学専攻博士課程4年 高橋隼一郎さんから「『気になるからやってみよう』で進んだ6年制院転博士学生生活」というテーマでお話いただきました。

講演では、学部生の時にやっておけばよかったことや興味のあることに積極的にチャレンジする精神、また、普段の日常生活の中に博士課程の研究に必要な「論理的思考」が隠れているということ、学会参加で得た経験等についてお話いただきました。

質疑応答・座談会では、進路選択のきっかけや大学院生活で大切にしていること、学部と大学院との違い等について参加者から多くの質問があり学部生が大学院進学やキャリアプランを考えるうえで大変有意義な機会となりました。



Smart Café in 医学系

第一回

日時：令和4年9月20日(火) 17:15～18:15
形式：ハイブリッド・オンデマンド
参加者：91名

「あなたは育休がとれますか?」をテーマに開催しました。

まず、附属病院第一内科助教の岡澤成祐先生の司会のもと、聴講者参加型企画として育休に関するクイズ形式のリアルタイムアンケートが実施され、育休の取得要件や育休中の給与面等本学の育休制度を学ぶ大変有意義な機会となりました。

続いてのパネルディスカッションでは、育児休業を取得された男性医師3名 附属病院麻酔科診療助手の大西健太先生、附属病院感染症科特命助教の上野亨敏先生、済生会富山病院産婦人科医長の津田桂先生にご登壇いただき、ご自身の経験から産後に夫婦で協力して育児をするときに必要なこと・苦労したこと、育休取得までの経緯や取得後の感想、産後の育児環境などそれぞれの体験談をお話いただきました。

参加者アンケートでは「将来自分も育休を取りたいと思っているので、実体験の話は大変勉強になった」といった感想が寄せられ、また、今回は若手男性の参加率が高く、家事育児と仕事の両立への関心の高さが窺えました。



第二回

日時：令和5年3月14日(火) 17:15～18:15
形式：ハイブリッド・オンデマンド
参加者：81名

「出産のベストタイミングはいつ?」をテーマとし、学生、研修医、大学院生で出産を経験した先生方の座談会と、続いて学術研究部医学系 小児科医局長/エコチル調査富山ユニットセンター特命講師の田中朋美先生から「ピンチをチャンスに!～小児科学教室における女性医師の働き方に関する取り組み～」と題して特別講演をいただきました。キャリアパスとワーク・ライフ・バランスについて、高い関心を呼び起こす内容の講演に多くの参加がありました。



『女性医師支援室』から『医師のダイバーシティ推進室』へ名称変更

本学附属病院『女性医師支援室』は、2022年9月に『医師のダイバーシティ推進室』に名称変更となりました。附属病院の勤務継続支援・復帰支援の体制を整え、また、女性医師のみならず、職場全体の労働環境の改善を目的とし、活動しています。

詳細はこちらのHPからご確認ください。
<http://www.hosp.u-toyama.ac.jp/guide/medical/support.html>

理工系分野における女子学生増加に向けた取り組み紹介

令和4年度 工学部 女子特別推薦を実施

本学工学部工学科の3コース（電気電子工学コース、知能情報工学コース、機械工学コース）については、県内の企業において女性技術者のニーズの高まりがありつつも、当該3コースを志望する女子の人数が非常に少ないため、本学で輩出する人材も著しく男子に偏った状況が続いています。

これらを踏まえ、大学において多様な学生を受け入れるとともに、社会からの理工系女性人材育成の要請に応えるため、工学部工学科において「女子特別推薦」が令和4年度に初めて実施されました。

女子学生の増加を図るのみに留まらず、これまで以上に男女が共に学びあい、多様なものの見方・考え方を知り、新たな社会に向けた技術者・研究者を育てる“ひとりづくり”の促進に繋げていくことが期待されます。

詳細は以下のURLをご確認ください。

工学部 入試情報:

http://enghp.eng.u-toyama.ac.jp/admission/admission_information/

富山大学工学部 女子特別推薦 令和4年秋実施

未来に貢献できる研究がしたい
グローバルに活躍したい
ものづくりを追求したい

募集人員 工学科 8人
電気電子工学コース 3人、知能情報工学コース 3人、機械工学コース 2人
出願期間 令和4年11月1日～8日 (Web出願)
詳細は9月公表予定の学生募集要項をご確認ください。
さあ、夢への第1歩を踏み出そう!

富山大学 工学部 入試課
TEL 076-445-6701 E-mail kyusen@eng.u-toyama.ac.jp
富山大学工学部HP <http://enghp.eng.u-toyama.ac.jp/>

理工系女子学生・卒業生のキラメキ活躍

理工系女子学生裾野拡大事業の一環として、女子中高生、保護者、教員等に対し、理工系の魅力を伝え、理工系進路への興味・関心や理解の向上、理工系進路選択を促すため、現役女子学生や社会で活躍する先輩を紹介するロールモデル集を作成しました。進路に理工系を選んだきっかけや研究(仕事)内容、中高生へのメッセージ等をまとめたコンテンツをダイバーシティ推進センターHPで公開し、また、リーフレットも各所で配布しています。

富山大学 理工系女子学生・卒業生のキラメキ活躍 URL:
<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/role-model/>

富山大学 理工系 女子学生・卒業生のキラメキ活躍集

富大でのキャンパスライフや勉強ってどんな感じ?
卒業後の就職先は? どのような研究をしている?
理工系進路を選んだきっかけは?

富山大学 ダイバーシティ推進センター
TEL 076-445-6146 E-mail: dmt@u-toyama.ac.jp

大津賀 結花さん (電気電子工学専攻)

【研究内容】
【研究のきっかけ】
【研究の楽しさ】
【卒業後の進路】

富山大学
ダイバーシティ推進センター
TEL 076-445-6146
E-mail: dmt@u-toyama.ac.jp

山田 由佳さん (2016年度工学部卒業生)

【研究内容】
【研究のきっかけ】
【卒業後の進路】

富山大学
ダイバーシティ推進センター
TEL 076-445-6146
E-mail: dmt@u-toyama.ac.jp

富山県・富山市 連携事業

出前講座

当センターでは、本学の学生が現在の社会状況の踏まえ、ともに働きやすい社会を形成していくために、将来のキャリア形成やライフプラン、男女共同参画等を学ぶための講演会「出前講座」を富山県、富山市との連携事業として例年実施しています。

日時：令和4年10月11日(火) 10:30~12:00

会場：五福キャンパス教育学部111教室

参加者：30名

テーマ：未来を描くライフデザイン

講師：小崎 恭弘氏 (NPO法人ファザーリング・ジャパン顧問・大阪教育大学教授)

富山県



参加学生の声

- ◇ 自分の今後の生き方について考えるきっかけになった。
- ◇ 「モデルなき時代を生きていく私たち」という言葉が印象に残った。
- ◇ 自分の将来を考えると、親がモデルになっていたことに気付いた。

日時：令和4年10月18日(火) 16:30~18:00

会場：五福キャンパス人文学部第4講義室

参加者：10名

テーマ：煌めく女性リーダー出前講座

ファシリテーター：平島 亜由美氏

(北日本放送株式会社 コンテンツ局次長 兼ラジオ制作アナウンス担当部長)

パネリスト：水落 香織氏 (株式会社アイベック 係長)
吉村 葉子氏 (株式会社リッチェル 課長)

富山県



参加学生の声

- ◇ 女性が管理職として活躍することを例に、多様な視点が社会に組み込まれることによって生まれる恩恵が大きいことが理解できた。
- ◇ 多くの人との出会いを大切に、自分の考えにプラスしていきたい。

日時：令和5年1月16日(月) 10:30~12:00

会場：五福キャンパス共通教育棟2階C棟C21

参加者：126名

テーマ：女性活躍推進時代のキャリア・デザイン

講師：坂本 真理子氏 (一般財団法人女性労働協会認定講師)

富山市



参加学生の声

- ◇ 目的と手段をはき違えないと言われたことが心に残りました。
- ◇ 欧米諸国と比較した日本の女性管理職比率の低さに驚きました。
- ◇ 自分の未来を想像できないことに悩んでいたが、自分がvucaの時代を生きていることを知り、悩みながらも良い事に気づいた。

「煌めく女性リーダー塾」

「煌めく女性リーダー塾」は、富山県が主催・企画の県内企業等における女性の活躍を一層推進するため、リーダーをめぐる女性社員の相互交流と自己研鑽を図り、業種・職種を超えたネットワークを構築するものです。富山大学からは2名の女性職員が参加しました。



【アクションラーニングコース】(全7回)

総務部人事課 係長 朝岡 瑠美さん

組織に貢献できるリーダー像を考えるコースに参加しました。グループワークを通し、自己理解を深め、将来のありたい姿を考えることで、組織の中で自分らしく力を発揮するとはどういうことなのか、そのヒントを得ることができました。また、先輩方のお話で印象に残ったことは、「心と体の健康管理が大切」「完璧でなくても良い」という言葉でした。困ったことがあっても、ひとりで抱え込まずにお互いに支え合いながら成長していけたらと思います。



【マスターコース】(全6回)

総務部総務課 課長補佐 坂本 晶奈さん

毎回、多くの内容が盛り込まれたハードな研修でしたが、講義内容だけでなく、一般企業の受講生の方の経営に対する考え方を学んだり、自らの業務に対する姿勢を顧みたりする、よい機会をいただくことができました。

今後は、研修で得た貴重な知識や知見をしっかりと自分のものにしながら、実際の業務に活用していきたいと思っております。



のびのびシネマ

社会課題・SDGsをテーマとした映画の上映会を実施しました。

参加者の皆様から好評をいただき、令和5年度も引き続き実施することが決定しました。今後の活動もお楽しみに！

◇令和4年度の開催状況及び上映作品名◇

- 5月13日 第3回 『ミッドナイト・トラベラー』
- 6月22日 第4回 『シャドー・ディール -武器ビジネスの闇-』
- 7月15日 第5回 『ザ・トゥルー・コスト -ファストファッション 真の代償-』
- 10月14日 第6回 『パレスチナのピアニスト』



❖❖ 本学の育児休業等関係規則等の改正について ❖❖

本学職員の育児休業等に関する規則及び関係規則等の改正が役員会で承認され、育児休業等、育児に関する制度が令和4年10月1日及び令和4年10月25日付けで施行されました。以下は、令和4年10月1日改正文の内容の解説図となります。法改正後、従来からの育児休業は2回までの分割取得が可能となり、男性職員は新設の出生時育児休業（産後パパ育休）を含めると、最大4回の分割取得ができます。

① 出生時育児休業（産後パパ育休）が創設されます

・ 子の出生後8週間以内に4週間（28日間）

（4週間を超える期間は通常の育児休業を取得）

※期間を定めて雇用される職員は、申出時点において、子の出生日又は出産予定日のいずれか遅い方から起算して8週間を経過する日の翌日から6か月を経過する日までに労働契約期間が満了し、更新されないことが明らかでない必要があります。

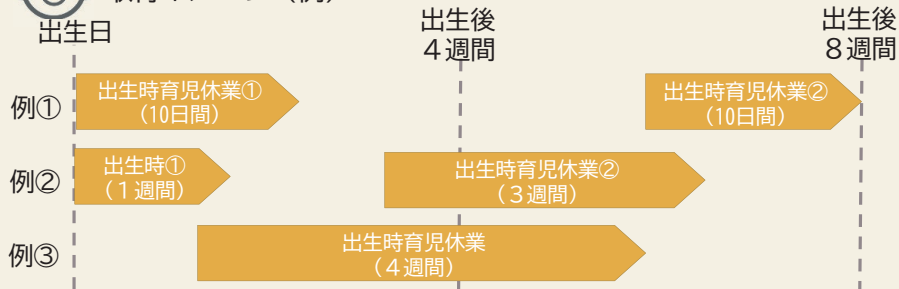
・ 2回に分割して取得することも可能

（2回分まとめたの申し出が必要）

・ 出生時育児休業の開始予定日の2週間前までに申出



取得イメージ（例）



② 育児休業を原則2回まで取得可能になります

・ 子の3歳の誕生日の前日までに、原則2回まで取得可能

※出生時育児休業とは別に取得可能です。

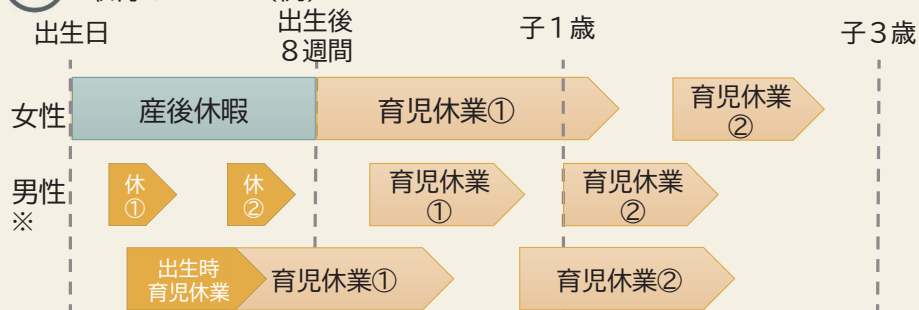
※2回分まとめた申し出の必要はありません。

※期間を定めて雇用される職員は、子が1歳6か月に達する日までに労働契約期間が満了し、更新されないことが明らかでない必要があります。

・ 休業1回につき、開始予定日の繰上げ変更・終了予定日の繰下げ変更は各1回可能



取得イメージ（例）



職員又は配偶者の妊娠及び出産、育児に関する本学制度は「WLB制度一覧（R 4. 10. 25時点）」（<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/seido/>）を参照ください。

また、相談事項や各種制度に関する質問等がございましたら、総務部人事課まで連絡ください。

❖❖ 富山大学 男性の育児休業取得者インタビュー ❖❖

本学の男性育児休業取得率は徐々に増加傾向にはありますが全体的にはまだまだ低い現状です。本学男性教職員の育児休業取得促進や、意識改革、職場の理解につなげるため、育児休業取得者の経験談をご紹介します。

学術研究部芸術文化学系 講師 幸 亮太先生

■育児休業を取得してよかったこと・大変だったことは？

私は娘が生まれた2月初旬から3月末までの約2か月間、育児休業を取得しました。コロナ禍ということもあり、遠方に暮らす両親の助けも借りることができなかったので、夫婦2人きりで初めての育児をしなければなりません。慣れないことの連続で大変な事ばかりでしたが、その大変さを夫婦で共有できたことは育児休業を取得して一番良かったことだと思います。また、一日一日変化していく子供の成長を2か月間、間近で見ることができたことはかけがえのない経験になりました。

■仕事の調整はどうされましたか？

育児休業の期間がちょうど春休みだったこともあり、授業の調整が必要なかったことはありがたかったです。それ以外の業務に関しても周りの先生方や職員の方々からご理解をいただき、たくさん助けていただきました。実は、当初私は育児休業の取得を考えていませんでした。それは業務や職場のことからではなく、お恥ずかしい話ですが、どれだけ育児が大変であるか、育児休業の意味や必要性を考えてもみなかったからです。要するに甘く考えていた私に、父親としても先輩である同僚の先生が取得することを勧めてくださいました。今となっては、その先生には感謝しかありません。

■仕事復帰された後に、変化した考え方・価値観などありますか？

娘との生活の中で「生きていることは当たり前ではない」という当たり前のことに気づきました。目が覚めて、お乳を飲み、うんちとおしっこをして、また眠る、ということは奇跡であり、そんな奇跡が積み重なって人は成長していくのだと感じるようになりました。目まぐるしく過ぎていく毎日ですが、娘や周りの人と過ごす一瞬を大事にしたいと思いました。

●パートナーからのコメント

出産時の出血が多く、産後の体力の回復に時間がかかったので、育児休業を取得していてくれて助かりました。また、日頃から家事に主体的に関わってくれる夫なので、即戦力になってくれました。



企画評価課 係長 富永 雄気さん

私は、令和4年の9月から約2ヶ月の育児休業を取得しました。休業期間中は育児（沐浴、おむつ交換）や家事全般を妻と協力して行いました。

■育児休業を取得してよかったこと・大変だったことは？

よかったことは、精神的に余裕を持って、育児をできたことです。日中も妻の病院への通院に付き添ったり、買い物なども二人で分担したりすることができたので、ゆとりを持って過ごせました。仕事をやりながらだと、育児にかかる時間が限られ、出産間もない妻に大きな負担をかけることになっていたと思われます。

大変だったことは、休業前の数週間で、妻からいつ生まれてもおかしくないということを聞いていたため、業務の引き継ぎのタイミングをいつにするかを考えながら仕事をするのがかなり辛かったです。

■育児休業取得に関してパートナーの反応はどうでしたか？

妻からは非常にありがたいと絶賛されました。出産後の約1ヶ月は体力が十分に戻っていないため、私とその間の家事全般をやったことがかなりの助けになったと言ってくれました。

■これから育休の取得を考えている人にメッセージをお願いします。

我が子の誕生から成長を日々実感しながら過ごすことが出来て、非常に充実し、貴重な時間を過ごすことができました。仕事の調整をどうするか、自分が休業して業務は回るのかなど、育休を取得するに当たって不安に感じることは多いと思いますが、育休を取得し、互いに協力しながら余裕を持って育児を行うことは、パートナーにとっても生まれてくる子にとっても非常に大事なことです。

仕事は周りの方に頼ることができそうですが、育児となるとなかなか難しいことが多くありますので、育休を検討している方には迷わず取得してほしいです。

●パートナーからのコメント

お互いの両親が県外にあり、さらにコロナ禍ということもあり、産後のサポートに不安を抱えていましたが、家事全般や上の子の相手をしてくれて本当に助かりました。ほかにも私の話し相手になってくれて、心にゆとりを持つことができました。



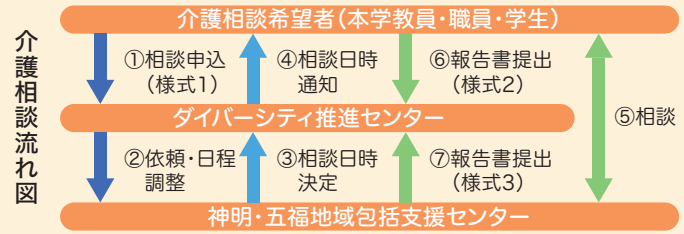
介護相談



ダイバーシティ推進センターでは、富山市の地域包括センターの協力のもと、随時介護相談を受け付けています。(相談方法は右記のとおり) 本学教職員・学生を対象とし、介護を受けるご家族がどこにお住まいでも相談できます。必要に応じて、介護を受けるご家族がお住まいの地域包括支援センターにお繋ぎすることもできます。遠距離介護や、どのタイミングで介護認定を受ければよいのかなど、介護にまつわる様々な悩みに経験豊富なケアマネージャーが対応しますので、どうぞお気軽にご相談ください。

富山大学介護相談体制

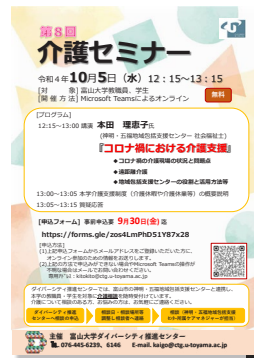
- 対象：富山大学に在籍する教職員・学生
- 相談方法：ダイバーシティ推進センターへの事前受付を行い、神明・五福地域包括支援センターへ相談をする。
- 受付時間：9:00～17:00
- 相談料：無料



第8回介護セミナー

「コロナ禍における介護支援」をテーマにご講演いただきました。コロナ禍での行動制限により、高齢者の社会参加の場や日常活動量の激減に伴い、認知機能の悪化など心身の機能低下が見られている現状についてお話があり、要介護状態になる前の介護予防の重要性についても学ぶことができ、介護への理解を深めることができました。

講師：本田 理恵子氏 (神明・五福地域包括支援センター 社会福祉士)
 日時：令和4年10月5日(水) 12:15～13:15
 形式：オンライン・オンデマンド
 参加者：20名



令和4年度 企画展示 「介護・福祉関連書籍」

附属図書館の協力のもと、五福・杉谷キャンパスで書籍の貸し出しを実施しました。



期間：令和4年7月4日(月)～8月31日(水)
 (五福) 中央図書館 1階 企画展示コーナー
 期間：令和4年10月3日(月)～11月30日(水)
 (杉谷) 医薬学図書館 2階 展示コーナー

当センターHPで貸し出し介護書籍一覧を見ることができます。

本年度新しく追加した書籍もありますので、ぜひご覧ください。

<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/news/2017/09/kaigo-soudan.html#kaigobooks>

大学入学共通テスト時の保育支援

保育支援の一環として、大学入試共通テスト業務に従事する教職員を対象に、保育料の補助を行いました。本年度は5名の教職員が利用しました。

実施日：令和5年1月14日(土)・15日(日)

令和4年度学内公募・採択結果

出産・子育て・介護等のライフイベントと研究との両立や、国際的視野に富む研究者の育成を目的として、下記のとおり学内公募を行いました。

女性研究者への成果公開費助成

助成額：上限10万円 採択件数：2件

～採択者の声～

- ◇ 様々な助成制度があることを知り、ライフイベント等を恐れず、キャリアアップを目指して頑張ろうとモチベーションを持つことができました。
- ◇ 学内に女性研究者を応援する事業があることを知り、大変心強く感じております。今回助成いただいた論文も公表に向けて準備を進めています。

研究サポーター制度

助成額：上限36,400円 採択件数：6件

～利用者の声～

- ◇ 研究サポーターにデータ整理をお願いできたことで、分析や論文執筆をする時間を持つことができ非常に助かった。研究成果を論文の形にまでまとめることができた。(教員/利用事由：介護)
- ◇ 支援を受けたことにより校務の負担を軽減することができ、研究・原著論文執筆及び家庭での育児に時間をあてることが可能となった。(教員/利用事由：育児)

休日保育利用料補助

助成額：上限1万円 ※今年度応募無し

担当理事・副学長 ご挨拶

ダイバーシティ担当理事・副学長 武山 良三



担当理事・副学長を拝命した平成31（2019）年度は、文部科学省の補助事業が終盤を迎えていた時期でした。当該事業では女性研究者の短期海外留学制度をはじめ様々な取り組みを行い、事業を開始した平成27年度に17.8%であった女性教員比率を、終了年である令和2年度末には19.9%に高めることができました。

しかし、目標値の25%には届かず、特に理系分野に対しては一層の努力が求められました。即時改善は難しい側面もあるため、長期的な視点に立って対応策を講じています。高校生に対して理系の面白さを紹介する裾野の拡大、学部学生を大学院から研究職へ導くロールモデルの紹介、女性教員の上位職や管理職への登用を視野に入れたキャリアアップ事業などに取り組んでいます。目標は大学運営に係わるポジションの女性教員を増やすこと。段階的に進めるべくまずは候補者育成を進めているところですが、各学部におかれましても各種委員会の長を任せるなど、共に推進願えればと思います。

令和2年度にそれまでの男女共同参画推進室をダイバーシティ推進センターに改組してからは、ジェンダー平等を進めることに加えて、多様な性的指向・性自認（略称SOGI）に関する取り組みにも力を入れています。事業の推進を宣言すると共に、社会の多様性に関する理解を深めて貰うため、無意識の思い込み「アンコンシャスバイアス」を学ぶ講演会等を連続して開催しています。「君、女子なのに機械が好きだなんて凄いな」と褒めることが、実は「女子は機械が嫌い」という先入観からの発言と説明され、ドキッとしました。「褒めるならいいだろう」と自身がそのような発言をしていたからです。先生方には是非講演会に参加し、アンコンシャスバイアスに対する理解度を確認して貰えたらと思います。

さて、この3年ほどはコロナ禍に明け暮れた日々でした。世界各国の首脳が対応策を発表する報道を見ていると、女性の姿が多いことに驚きました。陸続きの国々では、多様な民族や言語が当たり前のように混在し、ジェンダー平等も進んでいるようです。一方、島国で鎖国までしていた我が国は、未だに殿様時代の捉え方が継続しているかのようで、多様性に対して大きく遅れているようです。近年日本の研究力や産業力の低下が指摘されていますが、ダイバーシティの推進は多様性を生かし、国力を上げることに繋がるように思います。異なる考えに敬意を払い、その特質を理解し、それらを組み替え、あるいは連携させることで革新に繋げる。ダイバーシティの推進が先生方の研究成果にも繋がっていくものと捉え、活動へ積極的に参加していただきたいと切に願います。

編集後記

前号に続き男性の育児休業取得についての記事を集めました。令和4年10月の本学の育児休業に関する規則の改正についての説明と、育児休業を取得された男性教職員の声を掲載しております。お読みいただければ幸いです。

富山大学ダイバーシティ推進センター News Letter 編集メンバー

小田 夕香理 平野 真由 片桐 達雄 保田 俊行
今井 美恵子 南 和江 山道 由芽 白又 紫乃 甲斐田 直

富山大学
ダイバーシティ推進センター



〒930-8555 富山市五福3190

TEL : 076-445-6146

E-mail : smart@ctg.u-toyama.ac.jp

HP : <http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/>